

# 地方都市における循環バスの利用促進に関する研究

秋田大学 学生会員 ○佐藤大輔  
秋田大学 正 会 員 木村一裕  
秋田大学 正 会 員 日野 智  
秋田大学 正 会 員 鈴木 雄

## 1. はじめに

近年、衰退が進む地方都市では中心市街地の主要施設利用、中心市街地活性化を目的として中心市街地を循環するバスが導入されているが、ライフスタイルや環境の変化から利用者が減少しているケースも少なくない。本研究では利用促進施策案の提案を含めた住民への需要調査から、地方都市における循環バスの役割を明らかにし、地域との連携も含めた循環バス利用促進の取り組みについて考察した。

## 2. 調査概要

本研究は秋田県大仙市を対象としている。運行内容を再編するにあたって、その根拠となる地域住民の需要・循環バスに対する意識を把握するために、アンケート調査を行い、循環バス利用状況、利用者からは循環バスに対する満足度、非利用者からは循環バスを利用しない理由に関する設問に回答してもらった。さらに、利用者・非利用者共通の質問として、料金割引サービス案と利用促進活動への住民参加案についての評価、運行内容を再編するにあたって重要だと思うことについても回答してもらった。大仙市の循環バスの特徴と調査概要を表 - 1 に示す。

表 - 1 大仙市の循環バス状況の特徴と調査概要

|         |              |                                                                                                                     |
|---------|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 循環バスの特徴 | 事業主体         | 秋田県大仙市                                                                                                              |
|         | 運行主体         | 羽後交通                                                                                                                |
|         | 運行開始         | H13.8                                                                                                               |
|         | 料金           | 200円均一料金(未就学児無料)                                                                                                    |
|         | 距離/所要時間      | 9.7km/40分(一系統)                                                                                                      |
|         | 運行便数         | 8便/日:午前9時～午後4時(毎正時発)                                                                                                |
|         | 主な路線<br>周辺施設 | JR大曲駅、市役所、スーパー<br>病院、高齢者向け福祉施設                                                                                      |
| 調査概要    | 配布・回収状況      | 配布:2000部 回収:523部(回収率:26.2%)                                                                                         |
|         | 年齢構成比        | 10代:1% 20～30代:11% 40～50代:26% 60～70代:52% 80歳以上:10%                                                                   |
|         | 主な調査項目       | 利用状況:利用の有無、頻度、目的<br><利用者への質問><br>バスの評価:料金、運行時間帯、運行経路、運行間隔、<br>定時性、自宅からバス停までの距離、<br>バス停の設備、運転の仕方・乗客への対応、車内装備について     |
|         |              | <非利用者への質問><br>循環バスを利用しない理由、現在の運行経路の評価                                                                               |
|         |              | 利用促進施策案について<br>運賃割引サービス: 1日乗車券、回数券、買い物バス券<br>利用促進への住民参加: バスデザイン、車内活用、<br>支援団体・ボランティア、ワークショップ<br>運行内容再編にあたって重要だと思うこと |

## 3. 大仙市路線バス利用実態

大仙市循環バスの利用状況の変移と利用実態を表 - 2 に示す。

表 - 2 大仙市の循環バス利用状況の変移と利用実態

|         |        |                                                                        |
|---------|--------|------------------------------------------------------------------------|
| 利用状況の変移 | 料金の改定  | 運行開始当初:100円均一料金<br>平成20年4月:200円に料金改定                                   |
|         | 環境の変化  | バスターミナルが併設していた商業施設が平成20年10月に閉店                                         |
|         | 利用者の減少 | 運行開始から平成19年までは増加または横ばいであったが、平成20年から減少傾向                                |
| 利用実態    | 利用の有無  | ある:47% ない53%                                                           |
|         | 利用頻度   | ほぼ毎日:1% 週に数回:8%<br>月に数回:38% ほとんど利用しない:53%                              |
|         | 利用回数/日 | 1回(片道):55% 2回(往復):44%<br>3回以上:1%                                       |
|         | 主な利用目的 | 通勤:2% 通学:1% 通院:24% 公共施設:14%<br>買い物:27% 趣味・娯楽:10%<br>知人との交流:10% その他:14% |

循環バスの満足度について利用頻度の高い被験者の回答に着目すると、ほとんどの項目について80%以上の「満足」、「やや満足」という回答を得られた。しかし、「料金」、「運行時間帯」、「運行経路」については「不満」、「やや不満」の割合が他の項目よりやや高く、とくに終発の運行時刻については「もっと遅く」が54%であり、帰宅の際に利用したいという潜在需要があると考えられる。「運行経路」については「不満」「やや不満」と回答した人の56%が「現在の運行経路は遠回りで一系統しかないので利用しづらい」という趣旨の記述をしており、要望としては「逆回りの便がほしい」が多かった。利用しない理由は「自家用車を利用しているから」の割合が高く、とくに60～70代の高齢者に上記の理由で利用しない人が多い。これについては「将来自分で運転することが難しくなったらバスを利用したい」といった意見が書かれていたものもあり、今回の調査で提案した料金割引サービスの他にも高齢の免許返納者向けの割引サービス等の検討も行う必要があると考えられる。

キーワード: 循環バス、公共交通、地方都市

連絡先: 〒010 - 8502 秋田県秋田市手形学園町1 - 1 TEL(018) - 889 - 2368 FAX(018) - 889 - 2975

#### 4. 利用促進施策案の導入の検討

循環バスの満足度について「料金」、「運行経路」に対する満足度がやや低かったが、「運行内容再編にあたって重要だと思うこと」についても「低料金化」と「運行経路の改善」を選択した割合が高いこの2つは優先して改善すべきだと考えられる。

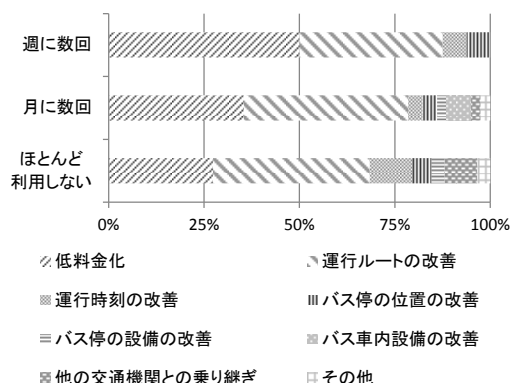


図-1 運行内容再編にあたって重要だと思うこと

##### (1) 料金割引サービスへの評価

料金については料金割引サービスとして、循環バスが1日乗り放題になる「1日乗車券」、200円券11枚綴りで2,000円の「回数券」、協賛店で1,000円以上の買い物をすれば100円分のバス券がもらえる「買い物バス券」の3つのサービス案への評価により、導入可能性を検討した。

利用頻度毎に各サービス案への評価を比較した。循環バスを利用する際に片道だけ循環バスを利用する人と往復で利用する人の各サービス案への評価を比較すると、「買い物バス券」が一番「片道利用」している人から「利用したい」と評価された(図-2)。ふだん循環バスを片道のみ利用していた人が、買い物した帰りに「買い物バス券」を使って循環バスを利用すれば、利用者数の増加が期待できる。ただし、この「利用したい」という評価には「店舗によっては利用したい」という回答も含まれており、その割合は51%なので、実際に利用してもらえるサービスにするためには「買い物バス券」に協賛する店舗自体の魅力向上、住民の需要に応えられるように店舗数・種類の充実が必要である。

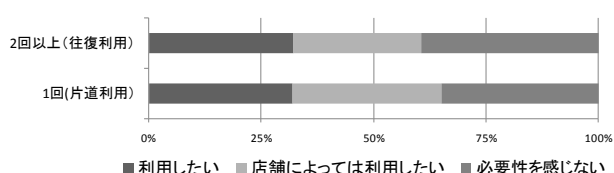


図-2 利用回数/日別買い物バス券への評価

##### (2) 運行経路改善について

利用者への満足度に関する設問で得られた現在の運行経路への評価と自由記述欄に記載されていた要望から、運行経路の再編にあたって、「通勤・通学用」、「病院や福祉施設利用用」など、用途別の運行経路を利用時間に合わせて設定することで一周あたりの所要時間が減り、利用しやすくなるのではないかと考えられる。

##### (3) 住民参加について

利用促進への住民参加案として表-3に示す4つの取り組みについて住民参加があった方がいいか、興味・関心があるかを聞いてみた。

表-3 アンケートで提案した住民参加活動案

|                                                      |
|------------------------------------------------------|
| ①循環バスのデザイン全般について<br>(車体デザイン、愛称、イメージキャラクターの考案など)      |
| ②車内の有効活用・雰囲気改善<br>(地域の児童生徒やお年寄りの作品展示、地域のイベント情報掲示など)  |
| ③循環バス支援団体・ボランティア参加<br>(循環バス利用促進のためのイベント企画やバスマップ作りなど) |
| ④ワークショップ<br>(市や専門家を交えた循環バスについての話し合い)                 |

循環バスの利用頻度毎に各活動案への評価を比較すると、「週に数回」、「月に数回」利用している人は「車内の有効活用・雰囲気改善」への住民参加があったほうが良いと回答した人の割合が高かった。また、活動への興味・関心については「週に数回」、「月に数回」利用している人は「ワークショップ」に興味・関心があると回答した人の割合が高かった。

これらのことから、利用頻度の高い人は車内の雰囲気改善などすぐに効果や変化が感じられるものを求めている、利用促進のための話し合いへも意欲があるのではないかと考えられる。

#### 5. まとめ

今回の調査で循環バスに対する住民の需要・意識を把握したことで、循環バス利用促進のためには運行内容再編に向けて住民参加の話し合いの場を開き、住民の関心が高い項目(料金や運行経路)について意見を募る必要があるということを明らかにした。

また、バスを利用して訪れたいと思うようなまちづくり、バスと連携したサービスの充実がバスの利用促進と地域の活性化のために必要であると考えられる。